

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 実用新案公報 (Y 2)

(11) 実用新案出願公告番号

実公平7-19260

(24) (44) 公告日 平成7年(1995)5月10日

(51) Int.Cl.⁹

A 0 1 K 87/06

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 8602-2B

請求項の数2(全5頁)

(21) 出願番号 実願平1-54691

(22) 出願日 平成1年(1989)5月13日

(65) 公開番号 実開平2-145070

(43) 公開日 平成2年(1990)12月10日

(71) 出願人 999999999

ダイワ精工株式会社

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

(72) 考案者 大山 実良

東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

ダイワ精工株式会社内

(74) 代理人 弁理士 越智 俊郎

審査官 星野 浩一

(56) 参考文献 実開 昭63-177165 (J P, U)

実公 昭59-13826 (J P, Y 2)

(54) 【考案の名称】 リール脚固定装置

1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 リール脚載置部の前側に移動フードを有し、これに対向して後側に固定タイプフードを有するリール脚固定装置において、前記固定タイプフードの径方向反対側周側部でかつ該固定タイプフード開口より後方になだらかな起伏の凸部を設けたことを特徴とするリール脚固定装置。

【請求項2】 前記固定タイプフードの径方向反対側周側部に、前記凸部に連続してその前側に長手方向に長い凹部を形成した請求項1記載のリール脚固定装置。

【考案の詳細な説明】

(産業上の利用分野)

この考案は、リール脚を固定するリール脚固定装置に関する。

(従来技術)

2

従来、釣竿を握り易くするために、実開昭59-81361号公報に開示のように握り部を膨出させた提案や、実公昭59-13826号公報に開示のようにトリガーを設けた提案がある。

(考案が解決しようとする課題)

上記前者の公報の第4図では、板シートの反対側中間部を膨出しているため、両軸受型リールを取付けた時には人差し指が膨出部の中央の高い所に当り、かつ握り部を握った手の滑り止めがないので握り難く、スピニングリールを取付けた時には親指付け根の手の膨出部が握り部の膨出部に当って握り難い等の欠点がある。

上記後者の場合は、トリガーが設けられているため、両軸受型リールを取付けた時には、人差し指がトリガーに掛けられて握り易いが、スピニングリールを取付けた時にはトリガーが邪魔になって握れない等の欠点がある。

3

本考案は上記欠点に鑑みて、取付けるリールの種類に応じて色々の握持方法に対応して握り易く、握り心地が良く、握った手が滑り止めされるリール脚固定装置を提案することを目的とする。

(課題を解決するための手段)

上記目的に鑑みて本考案は、リール脚載置部の前側に移動フードを有し、これに対向して後側に固定タイプフードを有するリール脚固定装置において、前記固定タイプフードの径方向反対側周側部でかつ該固定タイプフード開口より後方になだらかな起伏の凸部を設けたことを特徴とするリール脚固定装置を提供する。

また、上記固定タイプフードの径方向反対側周側部に、上記凸部に連続してその前側に長手方向に長い凹部を形成したリール脚固定装置を提供する。

(実施例)

以下、図示の実施例によって本考案を説明すると、第1図から第7図はリール脚固定装置の第1実施例で、第1図から第6図で釣竿1の外周にリール脚載置部1aと、その後部に固定タイプフード1bと、前側に雄螺子部1cとが一体に形成されている。

固定タイプフード1bの径方向反対側周側部で、かつ固定タイプフード開口Aよりも後方になだらかな起伏の凸部1dが、その前側に長手方向に長い形状の凹部1eが釣竿1の外周に一体に形成されている。

釣竿1の外周の前記リール脚載置部1aの前側には固定タイプフード1bに対向するように移動フード2が嵌合され、前記雄螺子部1cにはナット3が螺合されてナット3と移動フード2が一体に移動可能に両者が係合されている。

前記固定タイプフード1bの後方と、前記なだらかな起伏の凸部1dと、長手方向に長い凹部1eの外側面は天然ゴム、合成ゴム、コルク材、合成発泡材等の柔軟性部材4で嵌合固定されてカバーされ、柔軟性部材4に、なだらかな起伏の凸部1dと凹部1eとに応じた、なだらかな起伏の凸部4aと凹部4bが形成されている。

前記なだらかな起伏の凸部4aの高さは手の指の厚さの半分以下程度が望ましい。

前記移動フード2に形成された凸部2aは釣竿1の外周に形成された溝1fに嵌められて回り止めされている。

第1図のようにリール脚載置部1aに両軸受型リール5が載せられてリール脚6が固定タイプフード1bと移動フード2に挿入されて取付けられ、例えば中指と薬指の間になだらかな起伏の凸部4aが位置するように釣竿1が握られると、中指と薬指がなだらかな起伏の凸部4aの前後の傾斜面に当って滑り止めされ、人差し指は凹部4bの前側の平面4cに当って握り易いと共に握り心地がよくなる。

リール5が図示のリールよりも大型の場合は、親指が後退されるので、例えば人差し指と中指の間になだらかな起伏の凸部4aが位置するように釣竿1が握られて滑り止めされる。

4

第7図はリール脚載置部1aが下向きにされてスピニングリール7のリール脚8が固定タイプフード1bと移動フード2に挿入されて取付けられ、例えば中指と薬指の間にリール脚杆8aが挟まれ、親指付け根の手の膨出部がなだらかな起伏の凸部4aの前側の傾斜面に当てられ、親指が移動フード2に当てられる。

このようにスピニングリール7が取付けられると、なだらかな起伏の凸部4aの高さは低いので邪魔にならず、手の膨出部がなだらかな起伏の凸部4aの前側の傾斜面に当って握り易いと共に、握り心地がよくなる。

更に上述したような凹部4bが設けられていると、スピニングリール7が取付けられた場合に、親指の付け根の手の膨出部が凹部4bに嵌まって握り易いと共に、握り心地がよくなる。

前記のようにリール脚固定装置が構成されると、両軸受型リールが取付けられる時、及びスピニングリールが取付けられる時に夫々の握り方法に対応できて、握り易いと共に握り心地がよく、長時間握っても手が痛くならず、両軸受型リールが取付けられた時には手の滑り止めもなされる。

第8図は天然ゴム、合成ゴム等の弾性部材9になだらかな起伏の凸部9aと凹部9bが一体に形成されて釣竿1の外周に嵌合固定されたリール脚固定装置の第2実施例である。

第2実施例のリール脚固定装置に両軸受型リールが取付けられた時は第1図と同一であり、スピニングリールが取付けられた時は第7図と同一である。

前記説明では釣竿1の外周1にリール脚載置部1aと固定タイプフード1bと雄螺子部1cとなだらかな起伏の凸部1dと凹部1eが一体に形成されたリール脚固定装置を図示したが、リール脚載置部と固定タイプフードと雄螺子部となだらかな起伏の凸部を凹部を釣竿1と別体の筒体に一体に形成し、釣竿1の外周に嵌合固定してもよい。

図面は本考案の実施を例示しているが、本考案の作用効果を奏する範囲内でこの例に限定されるものではない。

(考案の効果)

本考案は以上のように構成されたから、両軸受型リールが取付けられる時及びスピニングリールが取付けられる時に夫々の握り方法に対応できて、握り易いと共に握り心地がよく、長時間握っていても手が痛くならず、両軸受型リールが取付けられた時、手の滑り止めもなされる等、実用上優れた効果を奏するリール脚固定装置が提供可能になる。

【図面の簡単な説明】

第1図はリール脚固定装置の第1実施例を示す側面図、

第2図は第1図の装置の縦断面図、

第3図は第2図の矢視線III-IIIによる横断面図、

第4図は第2図の矢視線IV-IVによる横断面図、

第5図は第1図の装置の平面図、

第6図は第1図の装置の底面図、

5

6

第7図は第1の装置の他の使用態様を示す側面図、

第8図はリール脚固定装置の第2実施例を示す縦断面図。

1……釣竿

1a……リール脚載置部

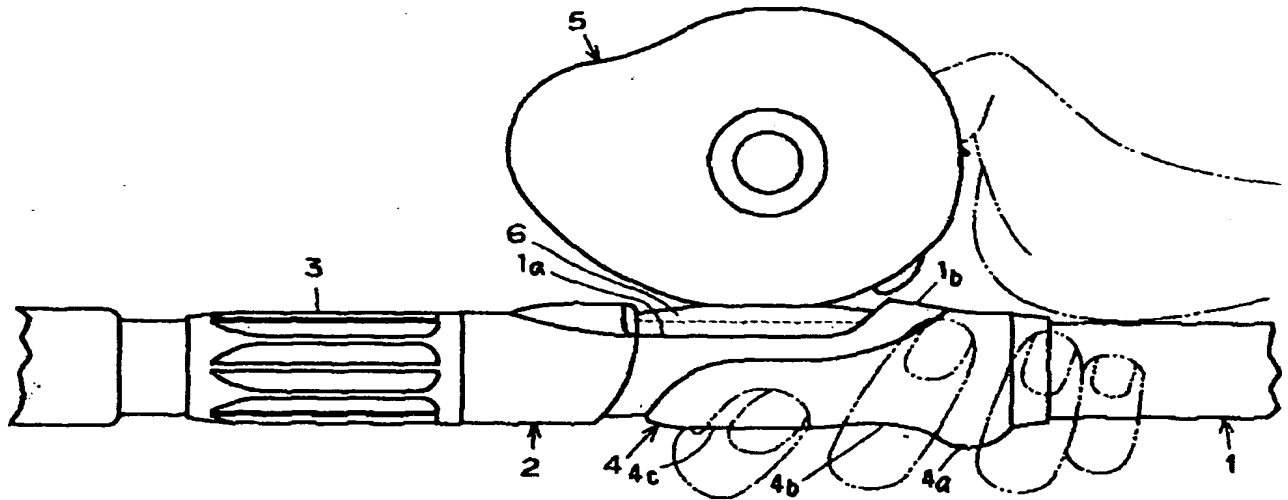
1b……固定タイプフード

1d, 4a, 9a……なだらかな起伏の凸部

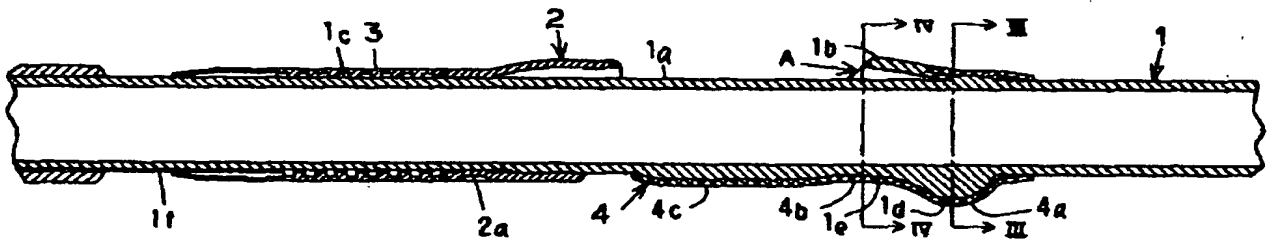
1e, 4b, 9b……凹部

A……開口

【第1図】

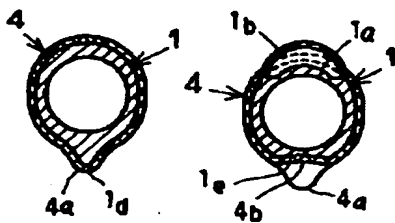


【第2図】

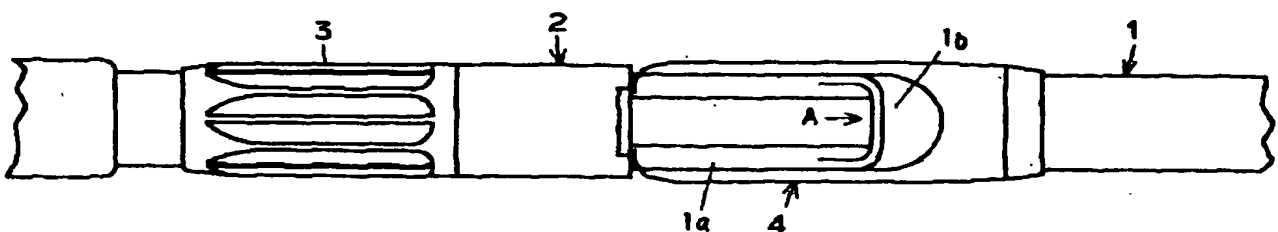


【第3図】

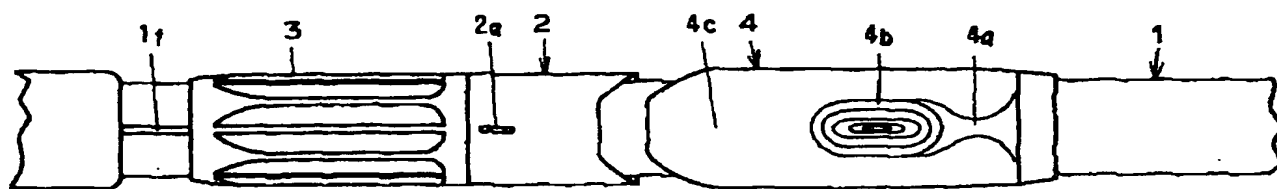
【第4図】



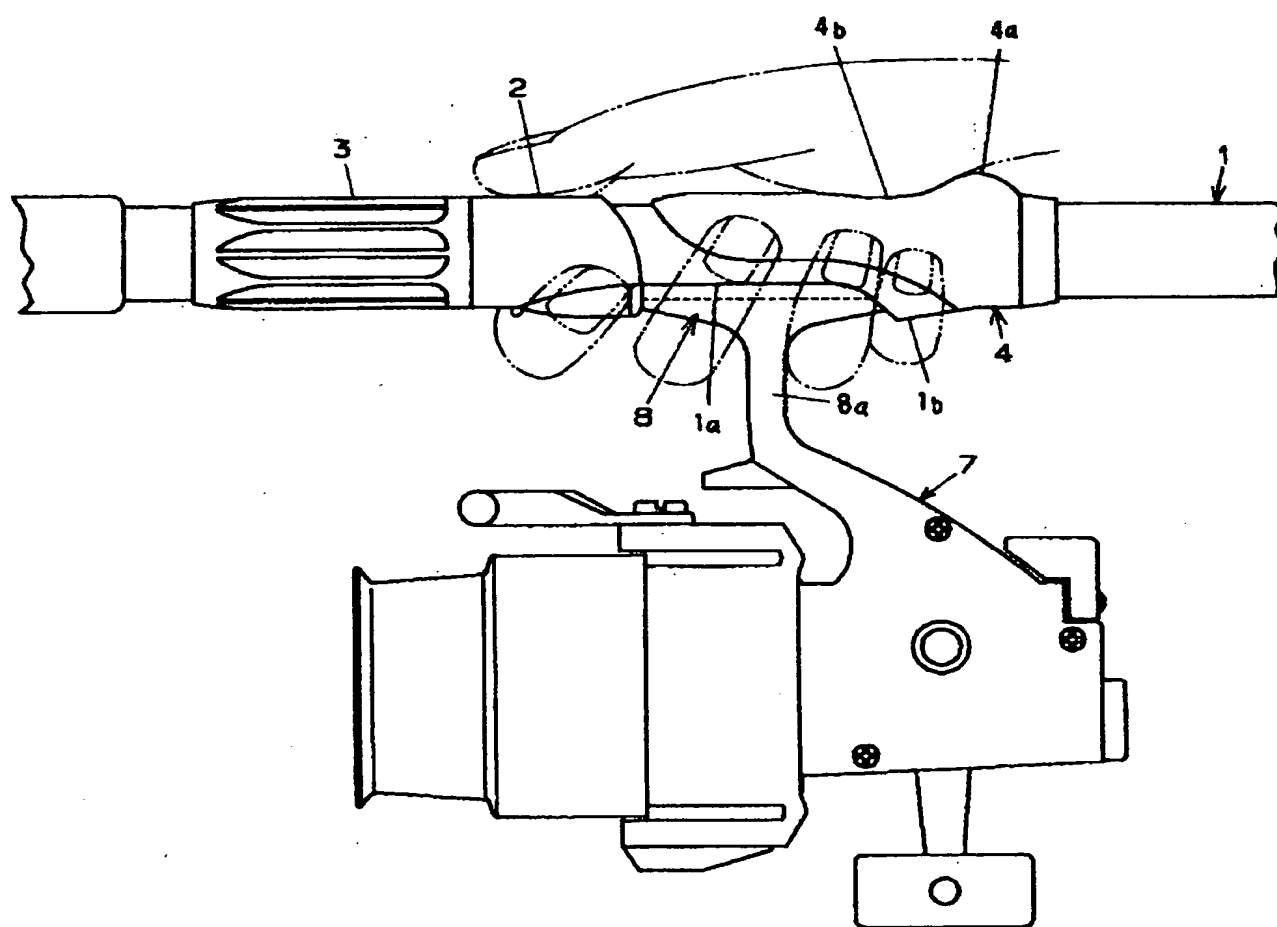
【第5図】



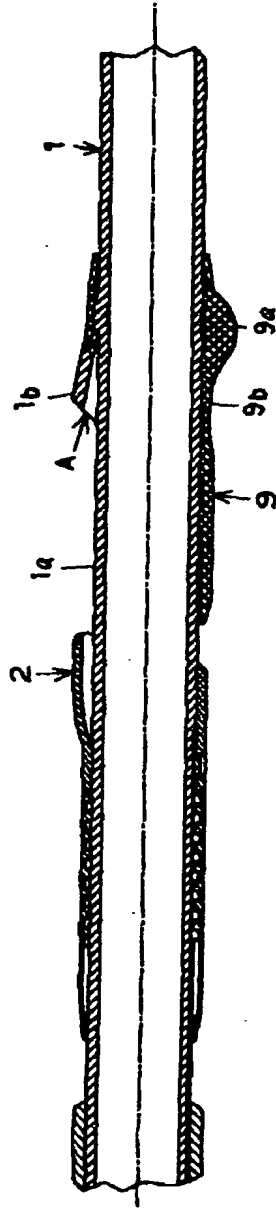
【第6図】



【第7図】



【第8図】



THIS PAGE BLANK (USPTO)